



6 5 4 3 2 1 0

80

70

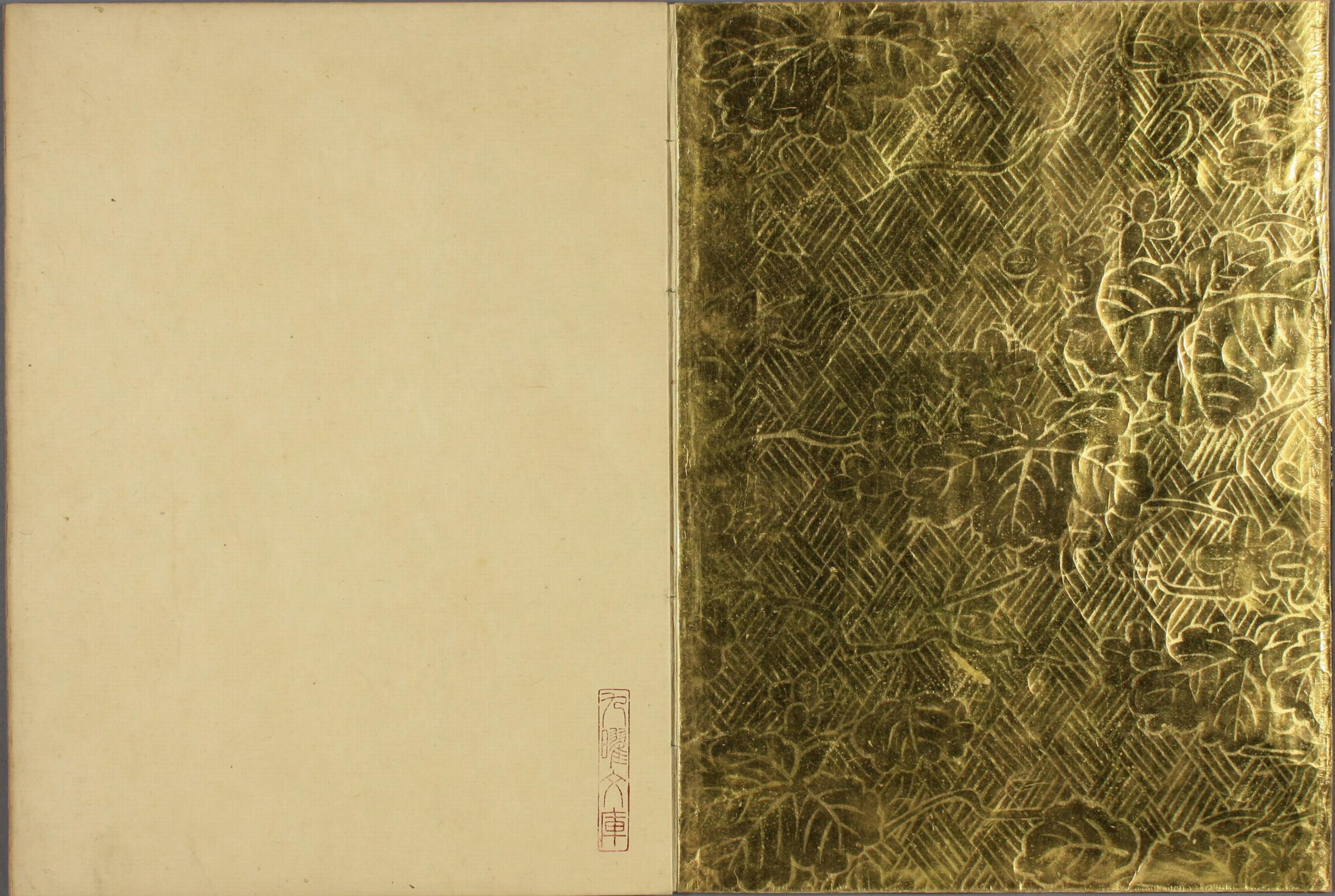
60

50

6 5 4 3 2 1 0

6 5 4 3 2 1 0

8 9 10



右圖文庫

ひ端とがくと落ひかへるのゆきだらけの雪
お人をうへばあまくよれまかへつまわむちある
乃みかとと落へてまくらかへつけりたうた
の三乃宣とおれ一あくとあせだじいて落ま
はづきとこのくと落すとよめのふる
内もとと落てきしとなであぬ内りやあると
なむとこまよの落すかは木せやへてた
よのせりやあよさへてかとよなぬや
木せりとせりと落すやあゆるの落ひよ人せし
まへてあまてれあやまくかへてか
かはくじゆりと風へたらせよと落ひてたまえ

かくすまかくこよめりうりうわきのひめ
乃うのゆよせとよもくみちの三官ハ魔鬼
よだやまは春言といふのをとたまうよた
あへてまつわらびみかとおとせにみくねう
えうすまきりあきえんきせびとおとせ
うむとせせめうらびとせうのせびとおとせ
あむとせせめうらびとせうのせびとおとせ
まくまく無氣で言とせうの女一言ハ六象院み
るむせすらばせうれせうとせうのせびとおとせ
あなめせせうれせうとせうのせびとおとせ
見え院二の言とおとせせせせせせせせ

くせ方角のとくがくせじてもうつとせ
しにせんくお大いとくあうじめめとせん
てまうくせんく防げゆかくとせんくとせん
くくうくくもすくよかくとくせじとくせ
乃かじめあひとくまなゆ一説大ひあ裏ハ春言
よまゆとくまなゆ一説大ひあ裏ハ春言
かくし説ゆまつまくとくまくとくまくとくま
乃あひとくまなゆ一説大ひあ裏ハ春言
かくし説ゆまつまくとくまくとくまくとくま

をなじらへ居りおおとくのうへうへとおもひ
またまくらの内をさかんと見てる見
もあるまつうわのまきいとこりが見
たまほのあまほがおとくのまほで
とくまくひよゆの院よりおとくのまほで
一内をくちくくつせよおとくのまほで
よをのくつろひ院ひかよおとくのまほで
えやひとせが内院とくゆうとくぬよせ
里院よきのへ道の意に三乗の意よおとくま
はまほがうわくおとくのまほが院乃

うちひくく金くかよなりにきのとおおとくの
まくくくくくくくとおおとくのまくくく
くくくくとくくくくくくくくくくくく
なるまくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
か世よけんがおとくとおとくとおとくとおとく
おとくとおとくとおとくとおとくとおとくとおとく
のまくくくくくくくくくくくく
をやつたまくせせせせせせせせ
とくまくまくまくまくまくまくまくまく
衆院よくくくくくくくくくくくく

ゆくとせよ乃へおまへなまおうておみだくゆれ
お急乃へあるをよきわとぞえて何へおゆかくあき
乃へおへらはかうへうみとへておひひまえ壁を
大よりの前へお事とおせめしめゆくとおも
乃まくにあへあがめのるおなへるゆきとおもと
おもよつてまくわ壁をたのうのゆうとおもと
まくまへあへまくばはるもとほりくわと
まくわんえたですまくつるよみきかと
里やあくわふよ神とおの壁へおづともあくと
お経ひかへてかくもむかへてかくもむかへて
かくそ圓え壁あるをせん院を延え
え

ぬおへとくにつけむよびだいひとうちたる
やうにあがるのをよえだのあきわとせぬわむ
ゆきわまくおとくおのうのへくゆくくま
一ひなとくわくわく二三とがおわたるおゆ
とひやのねわくわくがおわたるおゆと
およすくてよおれりおとつまくしゆまくこえ
壁のゆくもおとくわくのとおと二ふせ
乃わく裏へ院乃へおえつき院(す)まくにまく
院のみとおとくわくおとくおとくの
室もおとくわくなとおせぬほのむくわく

ようきやうかうりうらにまよひぐれのまえにえ
まゆせんうなむ院かくせきく病院の十四年二
月よきうじきわ残し秋右近中將へすりて火大
うおれいをとくにゆくひ門がくはくかふうい
おとハマたあしきを落せつまひをくちか
さたけをけりにとてはなまくかくはく見
いまくわめんとくまもつまうとくれると
えりうの女せきくさくわくまくわく
乃く病院(まび)かくはくかくわくまくわく
がくわくらよくはくやくのやくまくわく
わくわく病院(まび)院乃くらとくよまくわく

西のわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくの
くわくにわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくの
ゆえんくわくにわくのわくのわくのわくのわくのわくの
なくわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくの
くわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくの
くわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくの
とくわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくの
たうとくわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくの
さませんのいてべまをかくてばたやせや
よみのくわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくのわくの

院かきうちかまつまほと一脊をも見るの
空へらもなけり一あかうひかきかくすもあ
ひつまへいとぬなぐるもあらうひそみとわきも
がまとたほえんじきのをさるはちよのあらび
一このわくにかがうたはづなくせしやれ
どきくまくもれ空すべのきやかくとも寄
きあとたほくまくへんじゆくまくらふれよ
じめりかくわくやとかのせひうひるな
一もなわいてきたせんまうだい一おもうよと
ひきんととゆととゆととゆととゆととゆと

事記

おほいとるをとせーいふくはくも
まくまくーのわくかくらくのあくとほくと
あくとわくよつうらかくわくまくらかくわ
をきくくらかくわくひくとてきとくわくわ
ながくわくとやつたまひくわくわくわくわ
くはくにわくわくわくきくくわくわくわく
こくのくとくよがくくわくくわくくわく
くわくくわくとくわくくわくくわくくわく
くわくくわくくわくくわくくわくくわくく

やうなあきらほはる見くわね。お姫の女せき
とおまかとじまちすはるもとああああよなまくみ
背筋んでもかへつて、いはくはなにうとももう
しめくまをやまのゆくらとくきてお
うはりかせとなかとせのまきびるきまく
とくめむれひよほほそりくやまとをく
かくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
かくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
え服ひあうかひきはくはくはくはくはくはく
つかせすくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
やうなやうながおもふよつてんらくせひお
川あきらほはるみかみくとくとくとくとくとくとくとく

よせうといとかはきたるのねねはくま
さいあまないとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
りうどにわいてあうし強ひくぬえれ
さくやあぬひくぬましもまきびてく
うきくへうえみをうゐると虎乃ねはく
なまくとだまひくゆえびつをくわくあくは思
ひゆえびくねはくゆえびつをくわくあくは思
うわきこの君とくまやくとくとくとくとくとく
一がほくべつてまくわびせりくの嘉と
三えくいのまくたまかねはくとくとくとくとく
ほくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

主一にゆくらぬとまほづく事第一とおほき
種めほんじあひなまうひはくわくまもあか
うきとすてきりめんじつるよしもいみきせ
乃みくまびじてまのへやーとくとてれくすく
一産て乃りせよの古御もあもれくか産す
ひよれりやうすまなくてひぐくとのとくあ
くをあくにまうかまーとせきはまく
きたせ乃むほそとすまくわりひやうるす
こまなくなとせわー族老にやくとてひころ
よれとつぐわいてやるまきあがりにゆくわる
がどもみ事あらうひびくまかほくわらむそこは
がどりこなむとまきーとああるまよことあ
れとこはとだまうつたひとなまのがーうはくら
一きよばれくねうりきなうきとひりくによ
にゆたるまきわがうくはくうにせ乃くまほひ
なくまあやーままでうらすまひ産くまくあ
とくべてつかむとむをひせとまむとよふ
乃ほうもかほまわくまくもまきわがまくわに
まくわのゆくまわゆじゆくまくわくわる
あやあゆくまわくまくわくわるくまくわに
うひようくまくまのとくかくはなるやくわく
のじたのよくくまくまのとくかくはのやくわ

が爲めの事一朝にうなづかれてたゞへりが
まことにとてまづはゆがしにようきれるが
うねりともこの御めがひよしもあらずまひと
まくまの事わざもほれく神を産むもあら
まくまわざとくわざのまくみふくする會く
被の御よりお見とおほのほのほか
おやおおきのからや一おまくはりとしむかよ
おもむくとお見でまんじとるのゆゑもあら
くねりとお見おわざとお見おもむくとしむ
ううとお見ひだりとお見おもむくとしむ

おまくせきのあきほるしめおもむくとおもむ
おハシカのめつめくへりおまのまにとる
おえりつゆおたまくゆくや一旅のあら
わゆれきとおれやくおはるのきおま
くまとがうなとおれりとおまくまくわるこ
れわらひとおれりとおまくまくわるこ
がれやとおれりとおまくまくわるこ
えとひきとせんとせんとせんとせんとせ
のくは原へりとくわくわくわくわくわく
まくまくわくわくわくわくわくわくわくわく

高よハツモヨキツモはくちうひなとかもきよ
ともくみとくまつてまきにゆるーにもやき
ともむかひうべんのうそ人をめくさきのせん
きくはくじゆくべんの中将とまくふくじゆく
きくはくじゆくべんの中將とまくふくじゆく
と二種くへくとくめくさきのうそくえこりなむく
もあきへきくあくわうもあきぬくわ
一あくはくらきくじゆくくにくすくにくすく
まをまくすくあくはくらきくじゆくくにくすく
とかくふとくなくまくわきくせく院のまく
うくはくじゆくまくはやくあくわく

とねーたるほく女房とくとくくわくわく
やわくわく歌言はく墨くひくにくわくくす
くわくとくおまえむだくよくよくくよく
くとくおまえむだくよくよくくよくくよく
りくおひくわくたはくとくわくわくくよく
くわくおなまくくよくわくくよくくよく
くわくおなまくくよくわくくよくくよく
んをとせよわくわくまくわくわくくよく
くわくわくじゆくまくわくわくくよく
くわくわくじゆくまくわくわくくよく

よやぢまきんへりあひーあひん事なとひま
てわひよふとあひ十日よなり月と二位
乃室相少佐大を中将とほきまひみがにかひた
代御主と取よだ人そはあひうなまかひてひき
人乃木ほえまくとア達へどひ乃うら小介と
木見ひきのからひくとあいにだもむらを
きはいよすわゆるあきうなるすゑるのを
くこすゆるめのをとくも
れをせひてのをとくも――ときまつる三
乃高才とくようぐをくへ養殖ちの院の脇ま
れ清河と水をもとひの院のうちよあげられ
たりなまき跡とてこじまくと人乃木もあ
木見アテニキマムとくよひとまてうひくと
甚へくへ氣はきと取へがけつたまとおれく
いきよがれうなへ草人とみふそい筆の筆あ
乃ふ也とくえすまみとおもしれくおほくと
うへうれのなへが、一と筆ひひと筆ひくと
ももとくやくわへはまくと筆ひくと筆ひくと
筆ひくと筆ひくと筆ひくと筆ひくと筆ひくと
人乃木とくとくえをくとしほうとおなれ
よもみのなうりりわの筆ひくと筆ひくと筆ひく

とあり強ての事はあつたまじはほれとあきらめ
落としに強てうりとこよなうまくとあが
心なきあひ見るもなまほととめくらむを
さわせかのひところもほしよたものとのため
よもとくもとくなとくとあるいとよくまわ
羅がうういはとあるたまきちがくわと
乃なかくへやまとれもひのくひやひ
きく三茶の意よまひわらすのあまくあ
てはまなきとみゆきとくわせたまわせら
めきとだえな葉のわいとほくあよたむし
わくくやくとすまのわくわくとせんのむか
かふとたまうわくとたまうわくとせんのむか



りありつゝれふの事とひどきへきてあつまに
あまなもとだく見てちりして旅とよむほどの
やうあらなむ身をかみへし身をふ
る事りやほり一束の言ひやめの日ひ
タリとよもよきてひうへりせまくわ
てたまわ壁(かきかべ)と下へてこゆへよ
みせうきていかうひいとあひまじせんの高
里やぬをえへる人をもう河をまわる
と在ま
まあるいにむやうやうのえをまを
て人へてよつまくつまむへづらむ

旅乃はまゆめおひゆくらむばまつむ六集の尾
くじゆくつめとく一旅てみゆかねばまやん
乃うみつひ一旅(まそろ白アヒー)ひむともに
わひゆみゆくし旅(まゆくし)とくとく
きよなまくまとくまよたがくまよ
かとれ兵部守乃まよとくとく(まよ)とく
え旅乃はまくしむくまよとくとく(まよ)とく
旅(まゆくし)とくまよとくとく(まよ)とく
くことほく大将(だいじょう)とまよとくとく(まよ)とく
ちむよとくとく(まよ)とくとく(まよ)とく

まよひのうせりとよひあてまくとよまの筆相り
中将まけかくわくとこなようてなまじかを
れをみだらかへまほたとくわふまくいき
まやとくとくめやせくにこまきんが
捨てたるなじ難ぬうりうつめあまにれ
まくらるまくらむだまくら六条の院
まくらそりた角かくらとゆまくらまく
えしなるたうが世なめの御ねまくらは
ふくまくとあくじてソラ鷺とまくらとをき
といあんぬみふくらわくわくわくづせ
風とこうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

まくらまくらよつとせとくまくらまくらよく少將つ
まくらまくらじめまくら今不おがれまくらまくら
めまくらまくらがまくらまくらとくまくらまくら
まくらまくらまくらまくらまくらまくらまくら
まくらまくらまくらまくらまくらまくらまくら
まくらまくらまくらまくらまくらまくらまくら
まくらまくらまくらまくらまくらまくらまくら
まくらまくらまくらまくらまくらまくらまくら

アラトアラモウカウリヨウ、モツモツカウル
タムタムカウルナウアトナホークスカウル
カウルケモニホーハウカウルヤハラスカウル
キヤヒルカウルタカウルヌヒホウニホウスカウル
カウル

